

令和元年6月5日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02399

研究課題名(和文) 初期草双紙における「絵と言葉」の補完的表現方法解明のための基礎研究

研究課題名(英文) Basic research for elucidation of complementary expression method of "picture and word" in early grass double paper

研究代表者

黒石 陽子 (KUROISHI, Yoko)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：40247268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：現代のマンガやアニメーションの源流となる中世から近世にかけての絵巻物や絵本のうち、近世中期に印刷物として刊行された初期草双紙(赤本・黒本・青本)を中心に、その後の黄表紙や合巻までを視野に入れ、その表現方法としての絵と文の関係性について研究した。近代以降のマンガの表現方法には見られない独自の表現方法が多様にあることが明らかになり、その発想のあり方は日本の文化を考える上でも有効な資料となることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世中期に刊行された初期草双紙で未調査、未翻刻の作品を調査し、書誌調査(諸本調査を含む)、翻刻、語釈、絵の表現方法の特色について分析した。これを研究誌「叢 草双紙の翻刻と研究」の38号から40号までに発表し、近世文学研究者を中心に広く配布し、資料提供を行うとともに、研究成果を問うた。これらの成果については、さらに研究者以外の一般読者や関係研究者の目に触れるよう、近年、分かりやすい形にして公刊を目指している。またこれらの成果の一部は学校教育の場でも古典教材として活用できるよう、教材研究とその授業実践を行っており、その成果についても上記研究誌に掲載している。

研究成果の概要(英文)：Among the scrolls and picture books of the Middle Ages and the early Modern Period, which are the origins of modern manga and animation, the yellow cover and the agate are later on, focusing on the early grass double paper (Akahon, Kurohon, Aohon) published as printed matter in the mid-early period. We examined the relationship between pictures and sentences as a method of expression, taking into consideration. It became clear that there are various original expression methods that can not be found in the expression methods of manga since the modern age, and it was revealed that the way of thinking is an effective material also for considering Japanese culture.

研究分野：近世文学

キーワード：初期草双紙 黒本 青本 黄表紙 合巻 古典教材 絵と言葉 小学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現代の日本文化の中でもマンガ、アニメーションは国内のみならず世界でも大きく評価され、世界の文化への影響力も絶大なものがある。その源流を辿れば中世から近世にかけて展開した絵巻物や肉筆の絵本、そして近世に入って印刷物となった絵本類がある。それらの流れを明らかにすることは日本文化の特質を追究することであり、未来の日本文化の創造のためにも欠くことのできない研究である。既に中世の絵巻物の研究や、近代以降のマンガの研究など個別の研究は進展しているものの、その中間にある近世の絵本類がどのようなつながりを持つものなのかは、注目されることも少なく、断絶していたといえる。

2. 研究の目的

初期草双紙の特徴である、絵と文章の一体化による表現方法に注目し、その表現方法の特質を明らかにすることが目的である。近世以前から受け継がれてきた種々の話を、前代からの表現のあり方を踏襲しながらも、初期草双紙では新たな表現方法で読者に提供する工夫を始めた。その実際を分析することで、受け継がれて来た話の当時における解釈の有り様や、どのような発想の元で絵と文の関係を構築し、効果をあげているかを明らかにすることができる。

3. 研究の方法

近世期の子供絵本(初期草双紙)を対象として、中世からの、また近代への流れを意識しつつ、具体的な作品研究を積み重ねることが基本となる。原本の書誌調査(諸本調査を含む) 翻刻、語釈、絵の表現方法の特色の分析を行ってその作品の意義を明らかにする。

4. 研究成果

3年間の研究により、研究協力者の成果も合わせると、初期草双紙(黒本・青本)13点についての研究成果をまとめ、他に黄表紙2点、合巻5点、黒本形式の咄本1点の研究成果を刊行物としてまとめた。

また、現代課題となっている、小学校における古典教育に関連して、小学校の古典入門教材として初期草双紙がどのような可能性を持つかについても研究し、授業実践を行い、成果を挙げた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 24 件)

- 黒石 陽子 「黒本・青本『太平記綱目』について その四」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp1~14
- 石田 智也 「黒本・青本『つわものてから』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp15~36
- 手塚 翔斗 「黒本・青本『源太夫』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp37~62
- 細谷 敦仁 「黒本『雪中濃両敵』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp63~102
- 森 節男 「黒本『甲賀三郎三本刀』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp103~124
- 奥田粹ノ介 「『鎌倉/金澤 朝比奈切通』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp125~144
- 杉本 紀子 「咄本『友たちはなし』に見る画文の関係」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp145~164
- 檜山 裕子 「合巻『忍弾仇汐汲』について その四」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp165~180
- 加藤 康子 「合巻『名/将 大江山入』について その五」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 40号 2019年 pp181~220
- 佐藤 智子 「小学校における草双紙作品の教材活用について(その四)」
「叢 草双紙の翻刻と研究」査読無し 40号 2019年 pp221~239
- 黒石 陽子 「黒本・青本『太平記綱目』について その三」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 39号 2018年 pp1~22
- 森 節男 「黒本『金平役おとし』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 39号 2018年 pp23~44
- 杉本 紀子 「国立国会図書館蔵 黄表紙『王子長者』について」
「叢 草双紙の翻刻と研究」査読無し 39号 2018年 pp45~76
- 内ヶ崎有里子 「黄表紙『桃太郎一代記』の表現方法の特色について」
「叢 草双紙の翻刻と研究」査読無し 39号 2018年 pp77~103
- 檜山 裕子 「合巻『忍弾仇汐汲』について その三」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 39号 2018年 pp104~120

- 加藤 康子 「合巻『名ノ将 大江山入』について その四」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 39号 2018年 pp121~150
- 佐藤 智子 「小学校における草双紙作品の教材活用について(その三)」
査読無し 39号 2018年 pp151~169
- 黒石 陽子 「黒本・青本『太平記綱目』について その二」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 38号 2017年 pp1~26
- 杉本 紀子 「『分ノ福 丹頂鶴』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 38号 2017年 pp27~52
- 瀬川 結美 「黒本『仁心蟹物語』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 38号 2017年 pp53~78
- ②① 細谷 敦仁 「黒本『敵討美女窟』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 38号 2017年 pp79~104
- ②② 森 節男 「『金平猪熊退治』について」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 38号 2017年 pp105~134
- ②③ 加藤 康子 「合巻『名ノ将 大江山入』について その三」「叢 草双紙の翻刻と研究」
査読無し 38号 2017年 pp135~162
- ②④ 佐藤 智子 「小学校における草双紙作品の教材活用について(その二)」
査読無し 38号 2017年 pp163~183

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者 無し
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

内ヶ崎 有里子 (連携研究者) UCHIGASAKI, Yuriko
岡崎女子大学 子ども教育学部 教授
00279960
有働 裕 (連携研究者) UDOU, Yutaka
愛知教育大学 教育学部 教授
20213465

加藤 康子 KATO, Yasuko
東京学芸大学・東海大学・立正大学 非常勤講師
細谷 敦仁 HOSOYA, Atsuhito
東京都立戸山高等学校主幹教諭
杉本 紀子 SUGIMOTO, Noriko
東京学芸大学附属国際中等教育学校主幹教諭
檜山 裕子 HIYAMA, Yuko
立教女学院中学校高等学校教諭
瀬川 結美 SEGAWA, Yumi
東京学芸大学附属図書館
佐藤 智子 SATO, Satoko
世田谷区立桜小学校教諭
森 節男 MORI, Setsuo
大阪市立大学大学院 後期博士課程
奥田 粹ノ介 OKUDA, Kiyonosuke
東京学芸大学大学院 修士課程
石田 智也 ISHIDA, Tomoya
東京学芸大学大学院 修士課程
手塚 翔斗 TEDUKA, Syoto
東京学芸大学大学院 修士課程

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。